

# 1 人権・平和の尊重と男女共同参画の推進

## 施策の将来の目標像（目指す姿）

様々な啓発や教育機会の充実によって、市民の人権意識が着実に高まり、誰もが互いに尊重しあい、自らの個性と能力が発揮でき、世界の恒久平和を志向する人材が数多く育つ社会となっています。

## 現状と課題

### 1 多様化する人権課題

東広島市では、人権尊重のまちづくりのための各種啓発活動を行っていますが、近年の人権問題は、女性、子ども、高齢者、障害者、外国人の人権に加え、性的指向・性同一性障害や職場等でのハラスメント※1、インターネットによる人権侵害など、多様化・複雑化しています。こうした課題の解消へ向け、継続的かつ効果的な啓発を行っていく必要があります。

### 2 男女共同参画に関する理解や意識改革の必要性

本市では、一人ひとりが輝きながら豊かな生活を送ることができる社会を目指して、男女共同参画施策の推進を図ってきました。しかし、地域社会における男女の地位が平等だと感じる人の割合は、増加しているものの依然として低く、性別による役割分担の考え方は根強く残っています。性別に関わりなく誰もがその個性と能力を十分に発揮できるよう、男女を問わず家事や育児、介護などをする事への理解や、職場、地域など、あらゆる分野に参画しやすい環境づくりを推進することが必要です。

### 3 戦争・被爆体験聴聞機会の減少

本市では、昭和60（1985）年に「平和・非核兵器都市東広島市宣言」を行い、市民の平和・非核意識の高揚に向けた活動に取り組んでいます。しかし、戦後70年以上が経過し、戦争体験者や原爆被爆者の高齢化が進む中で、若い世代が戦争・被爆体験者から直接、戦争の悲惨さや核兵器の残虐さを聴くことのできる機会が減少しつつあります。市民一人ひとりが平和・非核に対する関心・意識を高め、戦争のない平和な世界を求める取組みを推進する必要があります。

## 施策の数値目標

指標	現状値（H25年度）	目標値（R6年度）
「日常生活の中で、人権が大切にされている」と思う人の割合	41.6% *東広島市人権に関する 市民意識調査	45.0%

※1 ハラスメント：相手の意に反する行為によって不快な感情を抱かせること。

## 施策の方向性

### 1 多様化する人権課題への対応

- 効果的な人権啓発の推進

### 2 男女共同参画社会の実現に向けた対応

- 継続的な意識啓発の推進
- 男女共同参画・女性活躍推進のための拠点、事業の充実

### 3 平和・非核意識の高揚に向けた対応

- 「平和・非核兵器都市東広島市宣言」の理念の普及啓発
- 平和・非核兵器について学び、考える機会の提供

## 主な取組み

### ① 人権啓発の推進

- 市民一人ひとりの人権尊重の意識を高めるため、様々な関係機関と連携し、効果的な意識啓発・教育を継続的に行います。

### ② 男女共同参画の推進

- 誰もが活躍できる社会となるよう、関係団体と連携し、効果的な意識啓発を継続的に行います。また、「東広島市男女共同参画推進室（エスポワール）」を拠点として、男女共同参画の実現を目指す団体等の支援や、性別や年齢に応じた講座等を実施します。

### ③ 平和を希求する人材の育成

- 他の自治体や平和活動団体との連携を深め、広域的かつ多角的な視点で平和・非核兵器に関する情報を発信します。
- 小中学生をはじめ、広く市民に対し戦争・被爆体験の伝承等を行うなど、より多くの市民が平和・非核兵器について学び、考えることのできる機会を提供します。

## 2 乳幼児期における教育・保育の充実

### 施策の将来の目標像（目指す姿）

子どもたちの健やかな成長のため、子育て家庭に必要な養育力が備わり、質の高い教育・保育環境が整っています。

### 現状と課題

#### 1 乳幼児期における教育・保育の重要性

乳幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期であり、この時期の教育・保育がその後の成長に大きな影響を与えることから、乳幼児期の教育・保育を担う保育者は、より高いスキル※1を身に付けるとともに、教育・保育の内容に応じた環境を構築していく必要があります。

#### 2 幼稚園・保育所・小学校の連携不足

幼児期と児童期における教育・保育のあり方が異なることから、小学校へ入学したときに、戸惑いを感じる子どもも少なくありません。

保育者が幼児期の教育と小学校教育の違いを理解し、子どもの育ちや取り巻く環境についての問題点や課題を十分に認識して教育・保育に取り組む必要があります。

#### 3 乳幼児期の家庭教育支援の必要性の高まり

乳幼児期の子どもは、保護者をはじめとした周囲とのコミュニケーションを通じて成長していきます。しかし、東広島市においては、核家族の増加による保護者以外とのコミュニケーションの減少や、保護者が共働きしていること等により、保護者が乳幼児に触れ合う時間を十分持つことができない状況が生まれています。

また、乳幼児と触れ合う機会が少ないまま大人になり、子育てに不安を抱える保護者などに向けた家庭教育支援の必要性が高まっています。

### 施策の数値目標

指標	現状値（R1年度）	目標値（R6年度）
子どもの育ちを実感できる人の割合	—	90%

（新たに設定した指標で、現状値が記載できないものは表中に「—」を記載しています。）

※1 スキル：訓練を通じて獲得した能力。「技能」。

## 施策の方向性

### 1 乳幼児期における教育・保育の質の向上

- 保育者の資質向上のための研修等の充実
- 教育・保育の質の向上に資する環境整備の推進

### 2 幼稚園、保育所、小学校の連携・接続

- 幼保小の接続に向けた交流・連携の推進

### 3 子育て家庭の養育力の向上に向けた対応

- 0歳から就学までの子育て、家庭教育の支援

## 主な取組み

### ① 幼児教育・保育の充実

#### 【乳幼児期における教育・保育の質の向上】

- 市内の幼稚園、保育所等の職員の研修機会の充実を図るとともに、保育者が互いに学び合い、高め合う機会の創出を図ります。
- 子どもの豊かな体験を育む教育・保育環境の構築を図ります。

#### 【幼稚園、保育所、小学校の連携・接続】

- 幼保小の接続を見通したカリキュラムを編成するため、幼稚園、保育所、小学校の関係者が定期的に意見交換等を行う交流・連携の場を充実させます。

#### 【子育て家庭の養育力の向上に向けた対応】

- 乳幼児期の家庭教育の重要性を啓発するため、妊娠期から夫婦で子どもとの関わり方を学ぶ機会を設けます。
- 保護者が、乳幼児と愛着を形成しながら、適切に養育ができるよう、生活習慣や食育等を学ぶ場を設け、乳幼児期の家庭教育を支援します。
- 産科医協力の下、中高等教育において、妊娠、出産、子育てに関する思春期健康教育を実施します。また、若い世代が乳幼児と触れ合う機会を設け、将来の子育て家庭の養育力の向上を図ります。



## 3 高い教育力と伝統を活かした 学校教育の実践

### 施策の将来の目標像（目指す姿）

すべての子どもたちが「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育む教育を受けられ、青少年が将来に夢と希望を持ち、主体性と創造性を持った人間として健やかに成長し、活動していくことができる安全・安心な社会環境が整っています。

### 現状と課題

#### 1 知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成とそのための基盤整備

東広島市は、全国学力・学習状況調査において、小、中学校ともに、全国及び広島県の平均を上回る結果が出ていますが、正答率 40% 未満の児童生徒も一定数います。また、知識や情報を組み合わせ、新たな考えを創り出すことや、多様な他者との協働に必要な思考力・判断力・表現力等を育成することが課題となっています。

心の面では、全国学力・学習状況調査における児童生徒の意識調査の結果から、自尊感情・自己肯定感に係る意識の数値が向上していますが、グローバル社会※1に対応した日本人としてのアイデンティティー※2の確立がより一層求められています。

体力面では、食習慣の乱れなど多様化する健康課題のほか、運動する子どもとそうでない子どもとの二極化傾向が引き続き見られます。

また、教育現場での ICT ※3 の活用や、これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上を図るとともに、教職員の過重労働や人材の不足が生じており、子どもたちに向き合う時間を確保する必要があります。

#### 2 学びのセーフティネットの構築

子どもたちの誰もが、家庭の経済事情にかかわらず、未来に希望を持ち、それぞれの夢に向かって頑張ることができるよう努める必要があります。また、子どもの実態の多様化が進んでおり、一人ひとりの教育的ニーズへの一層の対応が求められています。

#### 3 青少年の健やかな成長を支える環境の形成

本市の不登校児童生徒数、暴力行為の発生件数は、全国及び広島県の平均を下回っているものの、発生件数は増加しています。また、いじめ問題の積極的な認知に努め、引き続き解決に向けて取り組む必要があります。

### 施策の数値目標

指標	現状値（H29 年度）	目標値（R6 年度）
全国学力・学習状況調査結果における正答率 40% 未満の児童生徒の割合	小学校 11.0% 中学校 17.0%	小学校 9.0% 以下 中学校 15.0% 以下

※1 グローバル社会：グローバル化が進んだ社会。

※2 アイデンティティー：自己同一性。自分という存在の独自性についての自覚。

※3 ICT：Information and Communication Technology の略。情報通信技術のこと。

## 施策の方向性

### 1 知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成とそのための基盤整備

- 東広島市教育の伝統継承
- 東広島市の教育資源の積極的活用
- 新たな教育課題への対応
- 質の高い教育環境の整備

### 2 学びのセーフティネットの構築

- 学校における全ての子どもの学びの基盤整備
- 一人ひとりの教育的ニーズへの対応

### 3 青少年の健やかな成長を支える環境の形成

- 家庭、学校、地域の連携による青少年の育成

## 主な取組み

### ① 学校運営の支援と教育内容の充実

- 地域住民や保護者等が学校運営に参加する仕組みである学校運営協議会制度の導入を段階的に促進させ、市内全域の展開を目指します。
- 学校施設の老朽化対策を推進するとともに、教育内容・方法等の変化や多様化に対応するための教育環境の充実を図ります。
- 各種学力調査の成果と課題を把握・分析し、結果を活用した授業改善を推進するとともに、教員の指導力向上に向けた取組みを推進します。
- 「東広島スタンダード」と「一校一和文化学習」の取組みを推進するとともに、多様な体験活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めます。
- 教育活動全体を通じて、体育・健康に関する指導を適切に行うことにより、児童生徒の生活習慣の改善を促します。
- 教員の業務の役割分担・適正化を着実に実現するための方策に取り組み、児童生徒と向き合う時間を確保します。

### ② 特別なニーズに対応した教育の充実

- これまで構築してきた学びのセーフティネットを更に強化し、多様なニーズに応じた教育の実施、相談・支援体制の充実を図ります。
- 特別な支援を要する子ども一人ひとりのニーズに適切に対応し、特別支援教育の推進を図ります。また、留学生等の協力も得ながら、帰国した児童生徒や外国人児童生徒の、転入時の学校への円滑な適応を図るため、日本語指導等の教育活動の充実を図ります。

### ③ 地域と連携した青少年健全育成の環境づくり

- 学校や関係機関等との連携や支援体制の充実を図ることにより、青少年の諸課題の未然防止と早期対応に努めます。
- 家庭内でのコミュニケーションの充実や、安全・安心に過ごせる地域社会づくりを進めるなど、青少年の健全育成を支える環境づくりを推進します。

## 4 新たな価値を創造する人材の育成

### 施策の将来の目標像（目指す姿）

多くの子どもたちが最先端技術に関心を持ち、行政と地域の大学や試験研究機関、企業等が連携し、質の高い学びの機会が提供されています。

### 現状と課題

#### 1 創造性あふれる人材の育成

科学技術の急速な発展等に伴い、様々な課題が複雑化・高度化しており、今後の社会においては、超スマート社会（Society5.0）※1の実現及びSTEAM教育※2の推進が特に重要なテーマになっています。そのため、若年期において、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の涵養<sup>かん</sup>といった資質・能力を身に付ける必要性が高まっています。

また、今後は、児童生徒の個性に応じた教育を進める視点から、画一的な教育内容、指導方法での指導に終始することなく、それぞれの発達や個性に応じて教育内容等について多様な選択ができるシステムにすることも求められています。

#### 2 地域資源の大学等の教育への活用

東広島市の小中学校では、企業の専門性を活用した教育支援事業を実施するとともに、大学、試験研究機関との連携による教職員研修を促進するなど、地域資源としての各種研究機関を活用した取組みを展開し、教師の指導力や児童生徒の学習意欲の向上に一定の成果を上げてきました。

しかし、学校の立地条件等によって、大学、試験研究機関の活用を進めにくい地域があったり、単発の実施に終わっていたりする課題もあります。

### 施策の数値目標

指標	現状値（R1年度）	目標値（R6年度）
「授業によって、自ら課題を設定し、その解決に向けて友達と協力し、解決する力を高められている」と回答した児童・生徒の割合	—	80%以上

（新たに設定した指標で、現状値が記載できないものは表中に「—」を記載しています。）

※1 超スマート社会（Society5.0）：サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。第5期科学技術基本計画において、わが国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

※2 STEAM教育（スティーム教育）：STEAMは、Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Art（芸術）、Mathematics（数学）の5つの単語の頭文字を組み合わせた造語。これらを重視する教育がSTEAM教育。

## 施策の方向性

### 1 創造性あふれる人材の育成

- 大学・企業と連携した最先端の研究成果につながる各種の体験等の充実
- 体系的、系統的なキャリア教育※3の充実

### 2 地域資源の大学等の教育への活用

- 大学、試験研究機関との物的・人的連携の推進による理数教育分野における興味・関心の喚起
- 時代に応じた教育課題に対応するための教職員の指導力向上

## 主な取組み

### ① 理科系教育分野等の教育内容の充実

- 大学、試験研究機関との人的・物的連携の推進により、子どもたちの理数教育分野への興味・関心を喚起します。
- 初等中等教育におけるプログラミング的思考※4を含む情報活用能力の育成に向け、地元企業や試験研究機関から提供される教材活用の促進や、学校が外部の人材を活用しやすくする仕組みの構築を図ります。
- 主体的・対話的で深い学びの視点※5からの授業改善に向けた ICT ※6 活用実践事例の創出及び普及を図ります。
- 時代に応じた教育課題に対応するため、大学、試験研究機関を積極的に活用した教職員の指導力の向上を図ります。

### ② 子どもの興味・関心及び創造性を伸ばす教育の充実

- 大学・企業と連携した最先端の研究体験やモデル校指定等による特化した取組み等を通じて、子どもの興味・関心及び創造性を伸ばす教育の充実を図ります。
- 大学や地域企業等との連携により、体系的、系統的なキャリア教育の充実を図ります。
- 創造性の豊かな子どもたちの育成を図るため、実験や体験を通じて科学や文化への関心を喚起し、科学技術や文化芸術に関する知識の普及や啓発を行う場の設置を検討します。
- 市内の大学や試験研究機関等と連携・協働し、その知見を活用した講座を開催します。

※3 キャリア教育：一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す教育。

※4 プログラミング的思考：自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号をどのように組み合わせたらよいか、記号の組合せをどのように改善していけばより意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力。

※5 主体的・対話的で深い学びの視点：子どもたちが能動的（アクティブ）に学び続ける「アクティブ・ラーニング」の視点から、「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」を重視する視点。

※6 ICT：Information and Communication Technology の略。情報通信技術のこと。



## 5 知的資源と国際性を活かした人づくり

### 施策の将来の目標像（目指す姿）

大学立地などの地域の特性を活かし、その知見を活かした教育が提供され、国際感覚を備え、高度な専門性を身に付けた人材が数多く育っています。

### 現状と課題

#### 1 大学等の知的資源の地域における活用

東広島市には、大学や官民の試験研究機関が多数立地しており、多様な「知的資源」が集積しています。こうした知的資源を活かした各種の学びの場を市内各地で設定し、市民に身近な存在として認知され、親しまれる取組みが求められています。

#### 2 外国人との交流を活かした人材育成

本市には留学生や研究者、製造業の従業者など、多くの外国人が居住しており、また、国際協力・国際交流等の活動拠点である「ひろしま国際プラザ」が立地しています。

各小中学校では、外国人との交流機会の多さを活かした児童生徒の国際感覚醸成に資する事業を展開し、一定の成果を上げてきました。今後も、事業が形骸化することなく、児童生徒のコミュニケーション能力を育成し、視野を広げる機会として一層充実させていくことが求められています。

一方、地域活動に目を向けると、国際性豊かな人材育成が期待されているものの、その機会はまだまだ少なく、地域によって外国人とのコミュニケーションの機会に差があることが課題となっています。

### 施策の数値目標

指標	現状値（R1 年度）	目標値（R6 年度）
「外国人と積極的にコミュニケーションを図りたい」と思う児童・生徒の割合	小学校 73.3% 中学校 66.8% *全国学力・学習状況調査	小学校 80% 以上 中学校 70% 以上

## 施策の方向性

### 1 大学等の知的資源の地域における活用に向けた対応

- 大学等の知見を活かした教育施策の推進
- 大学（学生を含む）・試験研究機関・企業と地域・市民の交流、連携の促進

### 2 外国人との交流を活かした人材育成

- 異なる考え方や文化への寛容性、国際感覚を備えた人材の育成

## 主な取組み

### ① 大学・企業等との連携による学びの充実と国際感覚の醸成

#### 【大学・企業等との連携による学びの充実】

- 大学等の持つ研究成果や知見を、本市の教育施策の推進に活かします。
- 大学（学生を含む）・試験研究機関・国際協力機関・企業と地域・市民の交流、連携を促進し、子どもや市民の豊かな学びに活かします。
- 市内の大学や試験研究機関等と連携・協働し、その知見を活用した講座を開催します。

#### 【国際感覚の醸成】

- 国際交流の推進により、異なる考え方や文化への寛容性、国際感覚を備えた人材の育成を図ります。
- 学校においては、外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成する観点から、学習指導要領の着実な実施を促進するとともに、外国語指導助手の配置拡充等、外国人と外国語で積極的にコミュニケーションを図る機会の創出に努めます。
- 多様な言語や文化をもつ留学生や JICA 研修事業の研修員等との児童生徒、市職員、市民の交流を促進することにより、国際協力への意識醸成及び国際性豊かな人材を育成します。また、国際協力・国際交流等の活動拠点である「ひろしま国際プラザ」等を活用し、異文化に触れる機会を創出します。



## 6 市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり

### 施策の将来の目標像（目指す姿）

市民が主体となった学習活動が活発になり、生涯にわたってスポーツを楽しめる環境が形成されています。また、東広島市の歴史・文化が伝承され、市民の文化芸術活動が活性化されています。

### 現状と課題

#### 1 多様な学習機会の提供と学習成果の活用の充実

少子高齢化や情報化の急速な発展などの環境の変化により、生涯学習の果たす役割はますます高まっています。多様で変化しやすい学習ニーズに対応するため、引き続き、大学や試験研究機関等と連携し、地域における学習機会の充実や学習成果が活用できる環境づくりが求められています。

#### 2 芸術文化施設と地域活動の連携

東広島芸術文化ホールをはじめとした芸術文化施設において、市民の芸術文化に触れる機会が増加し、市民の芸術文化活動が活性化しています。また、令和2（2020）年度には美術館も移転開館し、これらの施設と地域活動との連携が求められています。

#### 3 文化財の保存・活用方策の検討と市民の保護意識の高揚

国の史跡や重要文化財をはじめとした指定・登録文化財や、未指定の文化財が所在し、地域固有の貴重な財産となっています。これらの文化財を保存活用することで地域のアイデンティティー※1を確立し、市民の保護意識を高揚させていく必要があります。

#### 4 多様なスポーツへのニーズに向けた対応と生涯スポーツの振興の必要性

多くの市民が趣味や健康増進のために、市民グラウンドや体育館等、各種スポーツ施設を活用してスポーツに親しんでいます。高齢化が進む中で、ライフステージにあわせた多様なスポーツに触れ合える機会や、スポーツ活動の充実を図っていくことが求められています。

### 施策の数値目標

指標	現状値（R1年度）	目標値（R6年度）
生涯学習の満足度	61.5% *市民満足度調査	80%

※1 アイデンティティー：自己同一性。自分という存在の独自性についての自覚。

## 施策の方向性

### 1 多様な学習機会の提供と学習成果の活用

- 市民の「学びたい」の思いがかなえられる環境の整備
- 生涯にわたる能力開発と学びによる豊かなまちづくりの実現
- 大学等の知的資源を活かした地域での生涯学習の推進

### 2 芸術文化活動の活性化と創造

- 芸術文化に触れる機会の創出
- 芸術文化活動の活性化

### 3 文化財の保存・整備・活用の推進

- 歴史・文化の次世代への継承

### 4 多様なスポーツへのニーズに向けた対応と生涯スポーツの振興

- 生涯を通じたスポーツの推進

## 主な取り組み

### ① 生涯を通じて地域で学び、活躍できる環境の整備

- 個人の趣味や関心に加え、地域活動やボランティア活動など地域課題の解決につながる講座を開催します。
- 市民の学習ニーズの高度化・多様化に対応するとともに、ICT※2など多様な手段を用いて、学習情報を分かりやすく迅速に提供します。
- 図書館では市民の課題解決に必要な幅広い資料を収集・整理し、ICTを活用したサービスを提供するとともに、つながりを深める場としての機能の充実を図ります。
- 様々な知識や技能等を身に付けた人材が、学習成果を発表する機会の充実を図ります。
- 生涯にわたり何度も学び直すことのできるシステムの普及を推進します。
- 生涯学習推進体制を見直すとともに、生涯学習施設の適正配置や計画的な保全管理に取り組めます。

### ② 芸術文化活動の活性化と歴史・文化の伝承

- 市民が芸術文化に親しむきっかけをつくり、市民の芸術文化活動を支援します。
- 市内の芸術文化団体に多くの市民の参画を促進し、芸術文化活動の裾野を拡大します。
- 市民とともに指定文化財の保存と活用を図り、保護意識を高めます。
- 市民の貴重な財産である歴史・考古・民俗資料の適切な保存と公開活用を行うとともに、その環境を整えます。

### ③ 生涯にわたってスポーツを楽しめる環境の形成

- スポーツを楽しみ、生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現する人材の育成を図ります。
- スポーツ少年団等の関係団体と連携し、地域でのスポーツ活動を推進します。
- スポーツへの関心やきっかけづくりにつながる様々なスポーツ行事を開催します。
- 市民が身近にスポーツに親しみ、利用しやすい施設を整備し、管理運営に努めます。
- 学校教育活動に支障のない範囲で、小・中学校の体育施設を市民に開放します。

※2 ICT：Information and Communication Technologyの略。情報通信技術のこと。